

広島大学呉サテライト 設置記念 公開講座

平成30年7月豪雨災害の現場から～相乗型豪雨災害の研究最前線～ を開催しました

3月13日（水），広島大学呉サテライトの開設を記念して，呉市役所本庁舎7階会議室にて，公開講座を開催いたしました。

防災リーダーの方を中心に定員を超える約100名の方々にご参加いただきました。皆さん真剣に聞いておられ，講師の方々の講演後には多くの質問が寄せられました。

【主催】 広島大学防災・減災研究センター
【日時】 3月13日（水）13時00分～16時00分
【場所】 呉市役所本庁舎7階 753・754会議室

1 限目

『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは

土田 孝 氏（広島大学防災・減災研究センター長）

従来の防災・減災対策の弱点や限界が顕在化した『相乗型豪雨災害』。そのメカニズムを解明することが，今後の有効な対策に資すると考え，災害を引き起こした歴史的背景やメカニズム，避難行動のあり方などを研究者の視点からご説明くださいました。



2 限目

砂防の視点から『相乗型豪雨災害』に対する今後の取り組みを考える

長谷川 祐治 氏（広島大学総合科学研究科 准教授）

広島県の過去の土砂災害と今回の土砂災害の比較，また，土石流の挙動を示す数値を基にしたシミュレーションと今回の実際の被害の比較。これらについて，動画を用いて分かりやすく検証し，そこから求められる今後の取り組みについてご説明くださいました。



3 限目

『相乗型豪雨災害』が交通にもたらしたものと今後への備え

神田 佑亮 氏（呉工業高等専門学校 教授）

平成30年7月豪雨により広島呉道路，JR呉線が途絶され，深刻で大規模な混雑が発生しました。そのメカニズムについて，身近な例を挙げ，解説するとともに，災害時の特徴や住民の心理から，本当に必要とされる情報は何かを解き明かし，どのように今後の災害に備えたらよいかを解説してくださいました。



新原呉市長 挨拶



榎原広島大学副理事 ご挨拶



会場の様子